

1年間の台湾留学を終えて

2019年度長期留学最終報告書

台湾 文藻外語大学

高知県立大学社会福祉学部

165029 木村瑠花

私は2019年9月～2020年7月に台湾で留学をしました。この留学を終え振り返ってみると、新たな発見や学びを得ることができ、自分でも大きく成長したと感じます。今回この最終報告書で、それらについて述べていきます。

まず台湾に留学しようと思ったきっかけについてです。私は高校生のころから海外に興味がありました。大学1回生のときにアメリカのエルムズ大学の短期研修に参加した後、長期留学をしたいという思いが強くなりました。また大学生になってからセクシュアルマイノリティの研究に興味を持ち始め、アジアで最もこの取り組みが進んでいる台湾に関心を持つようになりました。そこで台湾に留学して中国語や英語を学ぶと同時に、台湾でセクシュアルマイノリティの研究がしたいと考え、4回生で長期留学をすることにしました。

次に中国語の勉強についてです。私は留学前、ほとんど中国語が話せなかったにも関わらず、飛び級をしたいという意欲がありました。そこで前期は基礎を学ぶクラスから始め、友人や先生方にサポートをしてもらったおかげで、後期で1つクラスを飛び級することができました。前期のクラスメイトとは、ほとんど英語で会話をしていましたが、後期のクラスメイトとは全て中国語で会話するようになりました。この変化で、自分の中国語の能力が上がったことに気づきました。また過去の留学生が小老師（毎日ある中国語の授業以外で、個別で学生が中国語を教えてくれる制度）をおすすめしていたので、それを利用しようと考えていました。しかし諸事情あって受けることができなかったため、自分で言語交換の相手を探しました。後にその友人たちとは言語交換だけでなく、遊びに誘ってくれたり一緒にご飯を食べに行ったりするなど、とても親しくなりました。また後期になって初めて知った制度がありました。それは、週に2回、1対1の個別授業を無料で受けることができるというものです。華語中心という中国語センターで中国語を教えている先生が教えてくれるため、とても理解しやすかったです。この制度はあまり知られていない制度であるため、ぜひ今後文藻外語大学に留学する方には利用してほしいです。

この留学期間中は新型コロナウイルスの流行をはじめ、香港と中国の問題、台湾の大統領選挙、高雄市長のリコールなど大きな出来事がたくさんありました。そのような状況の中で、私が特に考えさせられたこと、強く印象に残ったことについて、以下の4つにまとめて述べていきます。

①セクシュアルマイノリティ

②外国人

③日台関係

④新型コロナウイルス

①セクシュアルマイノリティ

みなさんの周りにセクシュアリティに悩んでいる人や、セクシュアルマイノリティという人はいますか？多くの人は「いない」と答えると思います。しかし実際は必ず周囲にいる存在です。

私は留学中に絶対にやりたいことがありました。それは、留学先の高雄市で行われるプライドパレードに参加することです。そして11月に友人たちと一緒にそのパレードに参加しました。高雄市のプライドパレードは台湾の中でも規模が大きい方で、当日も2万人が集まり、非常に盛り上がっていました。私はパレードのために集まった群衆を見て、楽しみというより、悲しいという感情が沸き上がってきました。それは、日本の5分の1ほどの人口の台湾で、この規模の人数がセクシュアルマイノリティに関心を寄せ、権利を訴えている人がいるということは、日本ではより多くの人が悩み、関心を寄せているのではないかと考えたためです。しかし、日本では現在もほとんどの教育現場でセクシュアルマイノリティを扱っておらず、同性婚も許されていないという状況です。

私が実際にパレードに参加して印象に残ったことについて一部紹介します。

まず当時の高雄市長である韓さんに関することが書かれたプラカードを掲げていた人についてです。書かれていた内容については完全に理解することができませんでしたが、韓さんに向けて訴えるプラカードは多く見かけました。その理由は、韓さんが保守的な立場の人であり、セクシュアルマイノリティの人権保障を勧奨していないためでした。当時台湾は大統領選挙を控えており、もし韓さんが選挙で勝利すると、現在行われているセクシュアルマイノリティに関する活動ができなくなる可能性があるとのことでした。また韓さんは過去に性教育に関して後ろ向きの発言をしていたことから、韓さんに対し、性教育の重要性や中絶をする権利について訴えるプラカードを掲げている人もいました。セクシュア

ルマイノリティに関する活動は政治の動きの影響を大きく受けることから、パレードの参加者は政治に強い関心を持っていることがわかりました。さらに台湾では、この年の2019年から、アジアで初めて同性婚ができるようになりました。そのため「同性婚元年」というプラカードを持つ人など、同性婚の法制化について祝福する人もいました。プライドパレードでは性の多様性やセクシュアルマイノリティに対する差別や偏見をなくすことを訴えていくものだと考えていたため、性教育などに関する訴えには驚きました。その他に印象に残っていることは、車いすに乗った障害のある人たちが参加していたことです。このとき、障害とセクシュアルマイノリティという「ダブルマイノリティ」の存在にも気づかされました。日本において、このような「マイノリティ」と呼ばれる社会的に弱い立場に置かれる方たちへの支援や啓発活動が、より活発になってほしいです。

私は現在、文藻外語大学の学生を対象に調査を行い、セクシュアルマイノリティに関する卒業論文を執筆しています。調査の結果を見てみると、台湾の方が日本人よりもセクシュアルマイノリティや同性婚に関心を寄せていることや、台湾の方が自分が望む生き方や表現がしやすい環境であると感じました。この研究が、今後日本で同性婚やセクシュアルマイノリティについての議論を行う際の参考となればと思います。

②外国人

私は台湾に留学して外国人という立場になりました。1年間外国人として生活したことで新たな発見がありました。

私はよくフランス人の友人と遊びに行きました。出かけた先でご飯や飲み物を買うために店に寄り、私が中国語で注文すると、店員も中国語で返答していました。しかしフランス人の友人が中国語で注文をしても、店員は英語で返すことがほとんどでした。友人はこの状況について、「いつものことではあるが、やはり悲しい」と言っていました。私は多くの台湾人と同じアジア人ですが、友人は金髪で目の色は青い白人の子です。相手の見た目判断して、相手が話している言語を無視して、別の言語で話すということが失礼であるということを、友人の隣で感じ取りました。

その他に外国人に対する接し方で考えさせられたことがあります。例えば台湾の観光地でよくある光景で、私が日本人であることがわかると、店員が日本語で話しかけてくることや、知っている日本語を披露してくれるというものです。この光景について日本人の中で肯定的に捉える人と否定的に捉える人で意見が分かれました。前者は日本に興味を持ってくれてうれしいと感じる人で、後者は馬鹿にされていると感じる人や、うれしくないと感じる人です。私は前者の立場でしたが、後者の立場の話聞いて、自分の外国人に対す

る言動について考えるきっかけになりました。自分が良かれと思ってやったことが、実は相手を不快な思いにさせていたということがないように、言動に気を配りたいです。

③日台関係

みなさんは台湾に対してどのようなイメージがありますか？台湾は親日国であり、治安の良いというイメージがある人も多いと思います。留学前の私も、台湾は親日であるというイメージが強かったです。②でも述べましたが、実際に台湾人に対して私が日本人であることを伝えると、知っている日本語で話してくれたり、日本が好きだよという話をしたりしてくれたことが数えきれないほどあります。街中には多くの日本車が走り、テレビでは日本製品のテレビコマーシャルが流れ、日本が好きだと言ってくれる台湾人と関わると、台湾（人）が日本のことを好意的に見ていることは間違っていなかったと感じました。

しかしなぜ台湾がここまで日本に対して好印象を抱いているかについて考えたことがある人は少ないのではないのでしょうか。それには過去の日本と台湾の歴史が関係しています。日本は台湾を統治していた過去があり、現在でも台湾ではその時代の建物や資料などが多く残されています。台湾人と話をしているときに日本が統治していた時代の話になることも何度かありました。そのときに「日本が台湾を統治していたことを知っているよね？」と聞かれたこともあります。さらに授業で、靖国神社と台湾の問題について考える機会がありました。多くの台湾人が日本を好きであるからといって、当然全員がそうであるとは限りません。現在も残された問題があります。海外に留学する前に、日本とその国との歴史や現在の関係について理解をしておくことは重要なことであると再認識しました。

④新型コロナウイルス

私が初めて新型コロナウイルスについて耳にしたのは、冬休みに入ってすぐの2020年1月のことです。どうやら新型のウイルスが流行しているらしい、ということを友人と話したのを覚えています。このときはまだこのウイルスが私の生活に深く関わってくるとは考えてもいませんでした。

まず新型コロナウイルスの影響で、友人が留学中止になりました。外国人の友人だけでなく、日本人留学生も半分ほど帰国をしてしまいました。このような思いがけない形で、友人と離ればなれになってしまいました。そして私にも、毎日のように日本の外務省安全

ホームページから新型コロナウイルスに関するメールが送られてきて、私もいつ帰国になるのかと不安な日々を過ごしました。さらに3月に台湾に再入国した後の隔離生活やZOOMというアプリを使ってオンライン授業を行うなど、特に3月と4月は前期と全く異なる生活を送りました。他には台湾でもティッシュペーパーが一時的に品薄になったことや、公共交通機関に乗る際のマスクの着用が義務化されたこと、学校や店に入る前の検温を行うといった変化もありました。また日本では、台湾における新型コロナウイルスの対策が評価されていることを知りました。台湾では政府が全てのマスクを買い上げ、それを国民に広く行き渡るような仕組みを作りました。外国人でも簡単に購入できる仕組みになっていたため、私も購入するために薬局に行きました。そしてこの新型コロナウイルスは、留学最終日や帰国後にも大きな影響を与えることとなりました。新型コロナウイルスの流行前から流行中にかけての変化を外国で目の当たりにし、さらに外国人という立場で不安なこともありましたが、このときも本当に多くの方々に支えてもらったと感じます。

留学中は楽しいこと以外にも、現実逃避をしたくなることもありました。思いがけないトラブルがいくつも発生し、それらを外国語で解決しなければならない状況や、毎日勉強をしていても中国語の成長が感じられなくなるなどの状況に何度も直面しました。しかしどの状況でも前向きに捉えるようにして、自分を奮い立たせ、立ち止まらないようにしました。また留学前にやりたいと決めていた活動や調査を実現させることができ、言語などの壁があろうとも、やりたいと思ったことは行動に起こすという自分の行動力に気づきました。さらに留学を通してより国際問題にも目を向けるようになり、物事を多方面から見る力が身につく、興味のある分野が増えるなどの変化がありました。私は卒業後、福祉系の職業に就職する予定です。自分や相手、状況ときちんと向き合うことや物事を多方面から見ることで、前向きに考える力は福祉の現場においても大切になります。留学をして得られたことを自分のためではなく、他の誰かの役にも立てるように活かしていきます。

最後になりましたが、今回新型コロナウイルスによる影響などで日々対応に追われる中、最後まで留学のサポートをしてくださった文藻外語大学の教職員の方々や友人、高知県立大学の教職員の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



これは香港への応援メッセージが寄せられている写真です。文藻外語大学の敷地内に置かれていたボードに、写真に収まりきれないほど多くのメッセージが寄せられていました。これらのほとんどの内容は「香港加油（香港がんばれ）」とデモを行う側を応援するものでした。当時香港では中国の「逃亡犯条例」に改正案に反対する大規模デモが頻繁に行われていました。文藻外語大学の学生も、香港での出来事が他人事でないと感じていることが伝わりました。

この写真はプライドパレードに参加したときの写真です。このパレードには台湾の有名人も参加していたようです。それほどこのパレードは台湾において重要で関心の高いものだったということを知りました。帰国後もこの経験を生かして、何か活動を続けていきたいです。



留学中は台湾人以外にも多くの外国人の友人ができました。外国人の友人からその国の文化を教えてもらったり、逆に日本の文化を教えたりしました。留学先の国だけでなく、他の国の文化についても触れることができることが、海外留学の魅力の一つだと感じました。今は新型コロナウイルスの影響で外国への移動は難しいですが、いつかまた台湾など海外に行き、友人や先生と再会したいです。